

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

株式会社 トーエネック

証券コード | 1946

東証プライム・名証プレミア

現状分析

# 連結業績

- 良好な事業環境を背景に、2026年3月期は売上高・利益ともに過去最高を更新。
- 中期経営計画2027の数値目標をすべて前倒しで達成したことから、2026年4月に数値目標の見直しを実施。

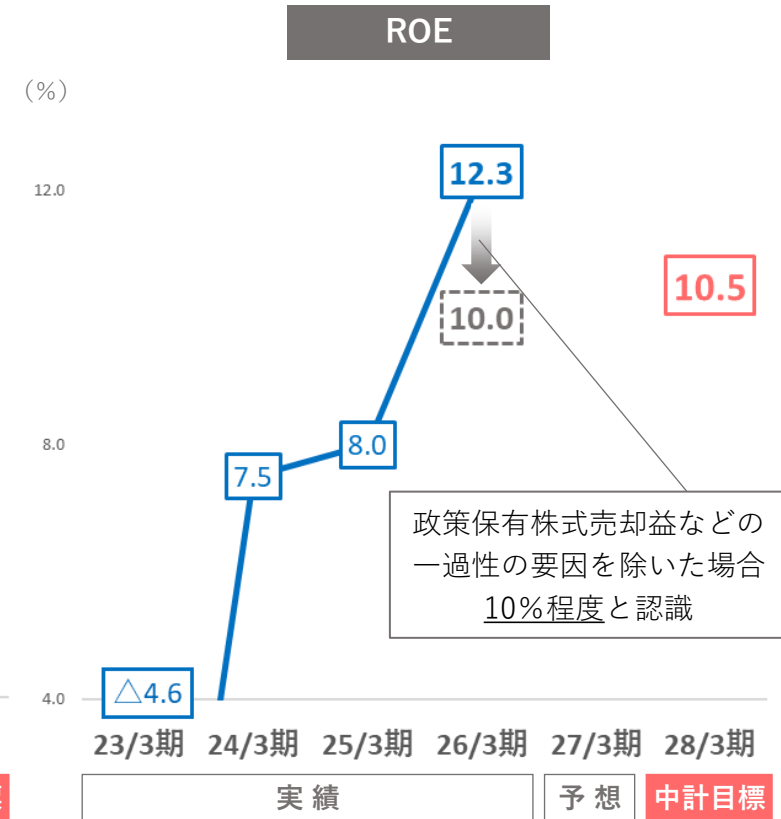
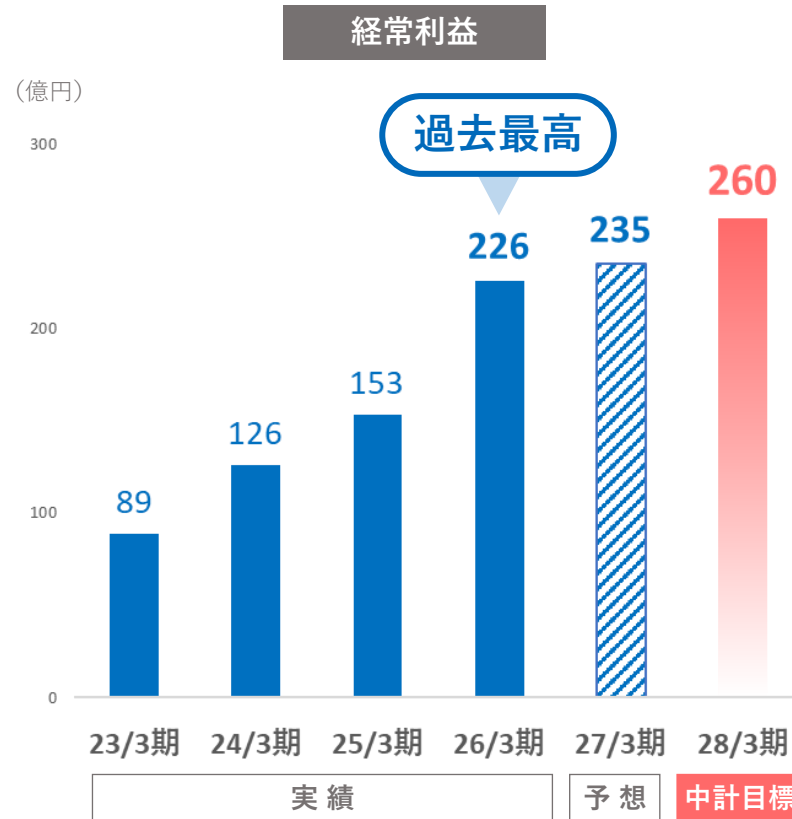
## 中期経営計画2027数値目標の見直しを実施（2026年4月28日取締役会にて決議）

**売上高** 3,100億円（2,700億円）

**経常利益** 260億円（180億円）

**ROE** 10.5%（8.0%）

※括弧内：前回公表値（2023年4月28日）

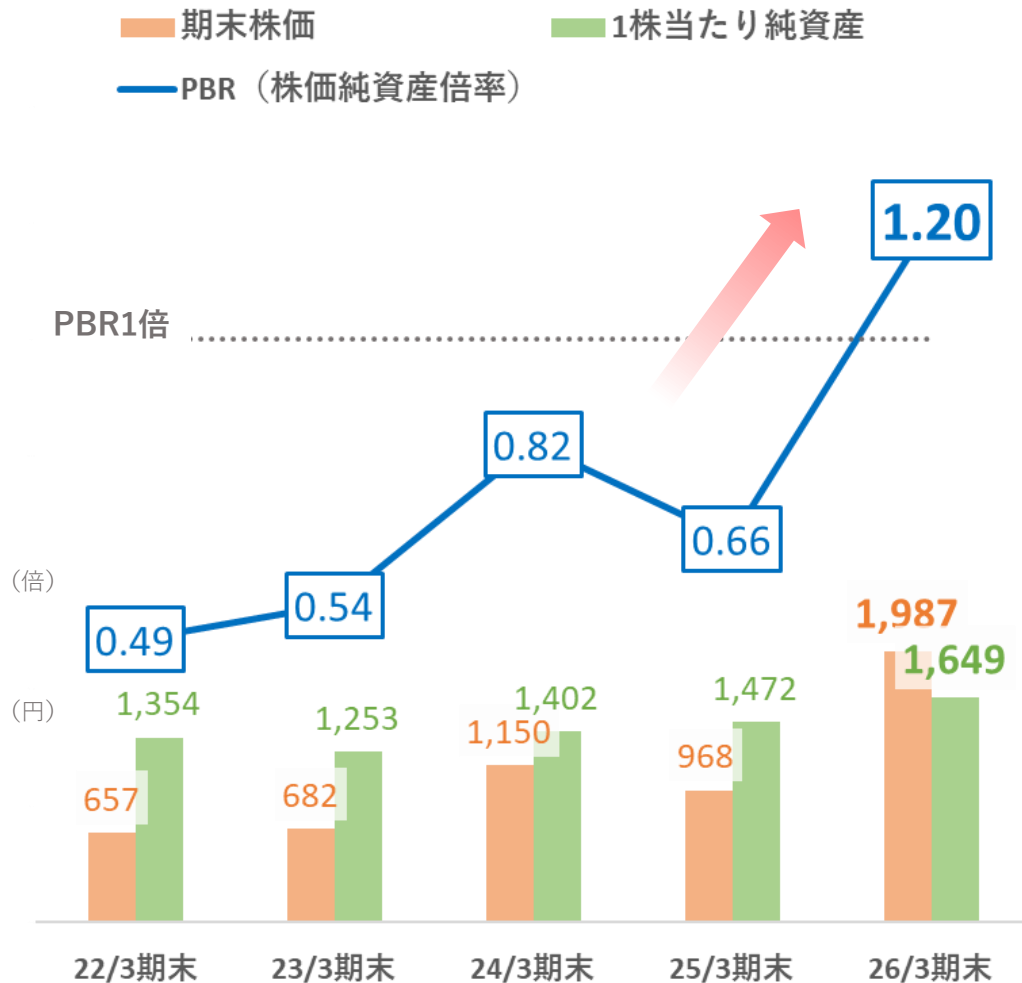


現状分析

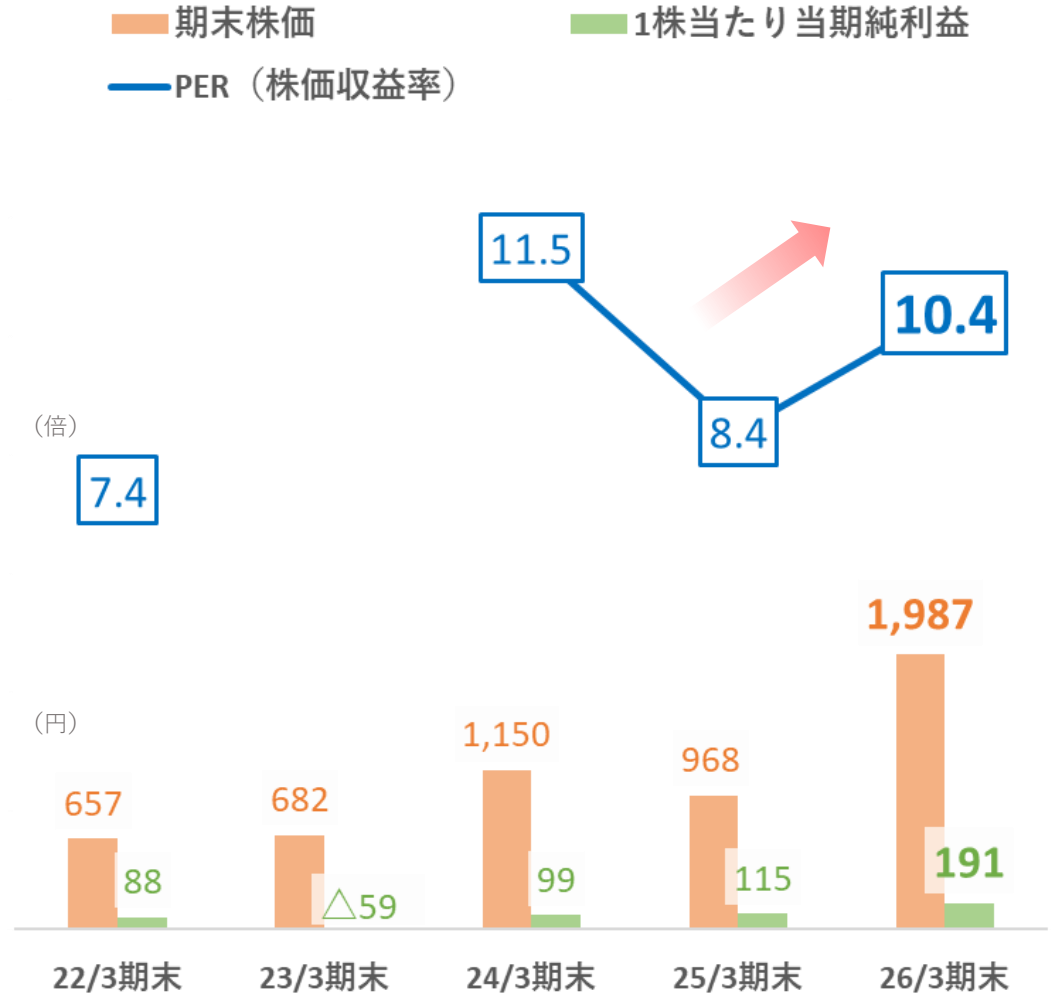
# PBR（株価純資産倍率）・PER（株価収益率） ※連結

- PBR1倍を下回る状況が続いていたが、株価の上昇により現在はPBR1倍超の水準まで改善。
- PERも同様に上昇しているが、業界平均（プライム建設業：17.8倍）と比較すると未だ低水準。

PBR（期末株価÷1株当たり純資産）



PER（期末株価÷1株当たり当期純利益）

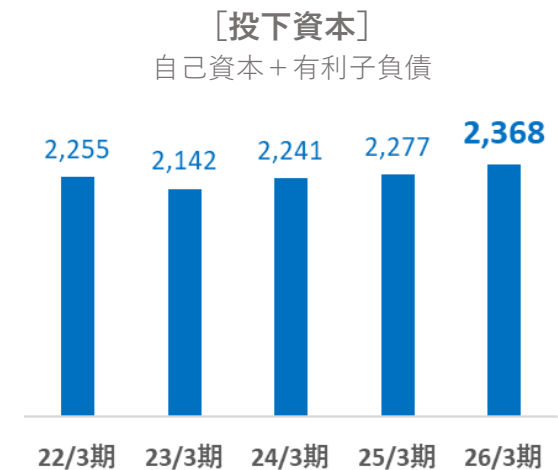
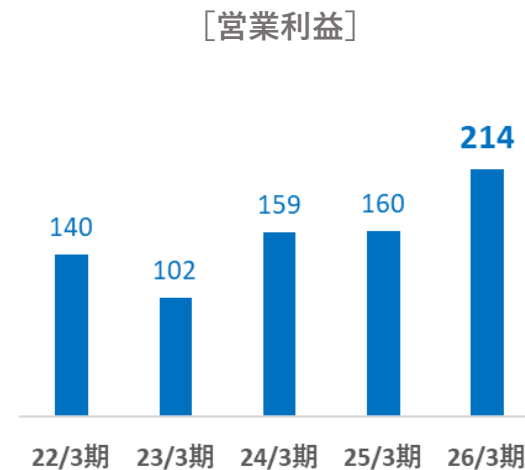
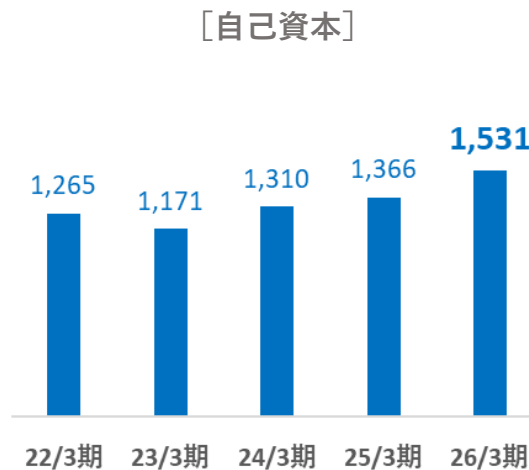
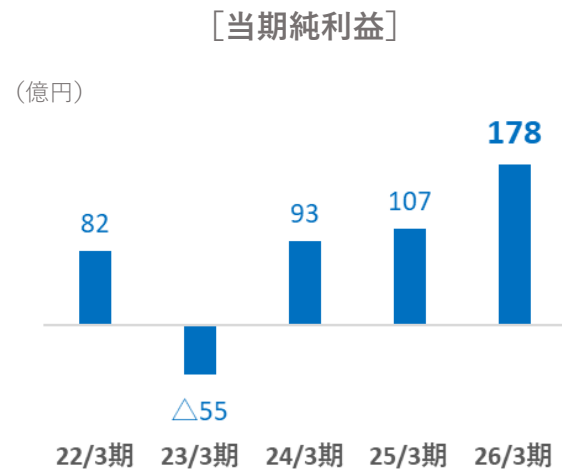
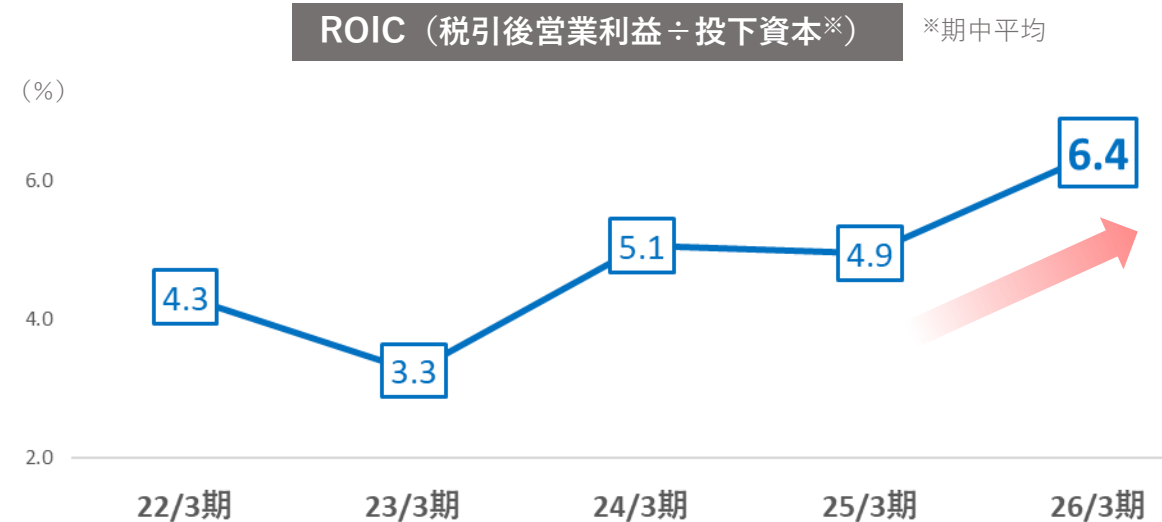
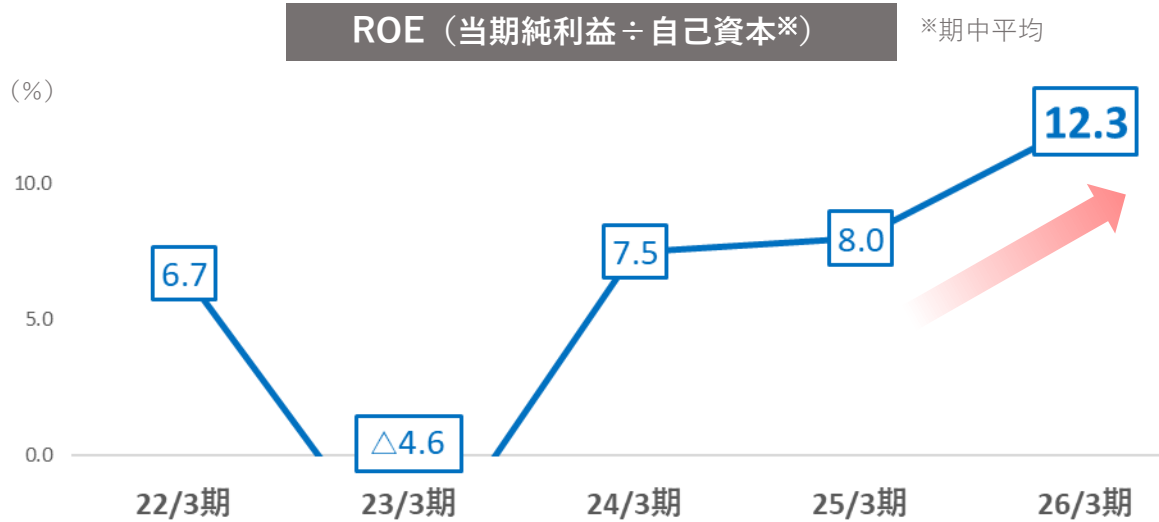


※2023年3月期は、1株当たり当期純利益がマイナス（純損失）のため非表示

現状分析

# ROE（自己資本利益率）・ROIC（投下資本利益率） ※連結

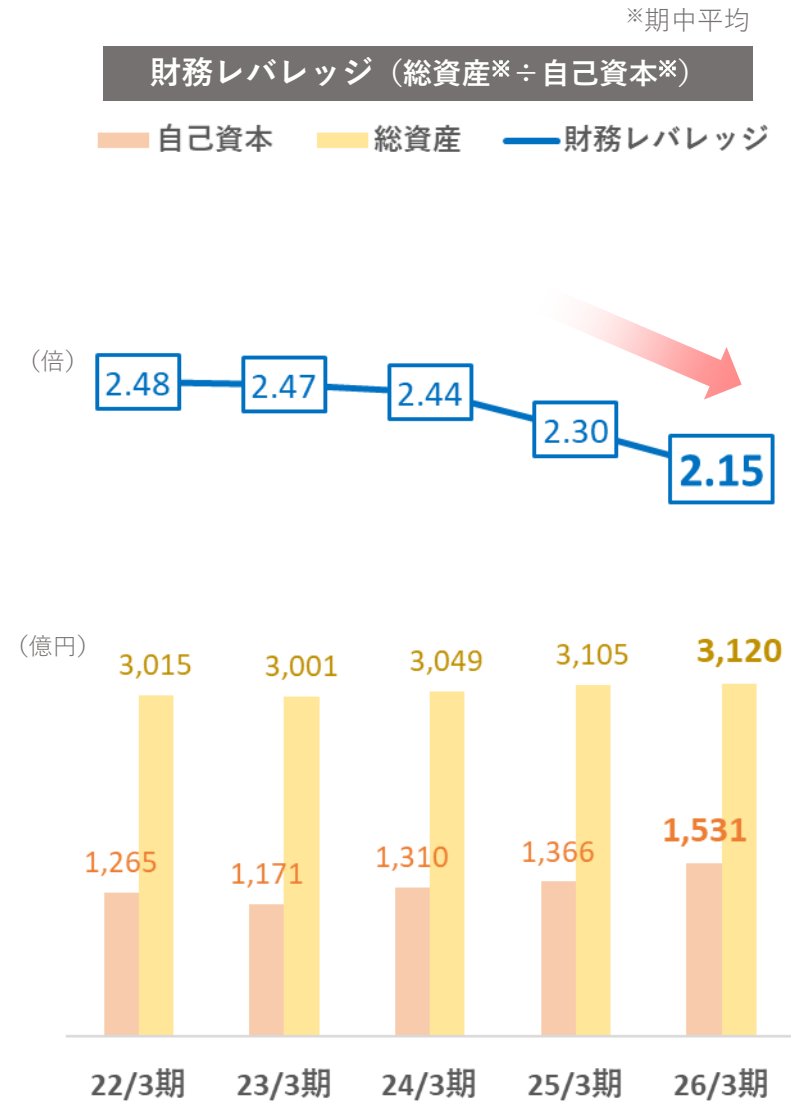
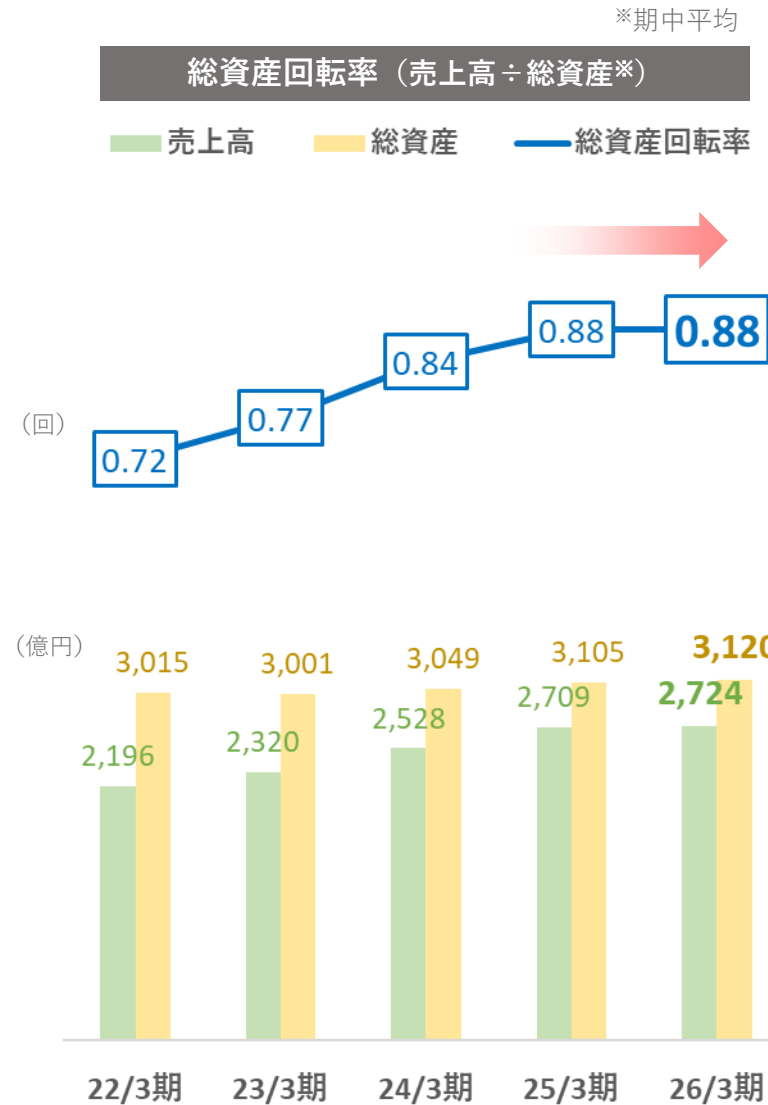
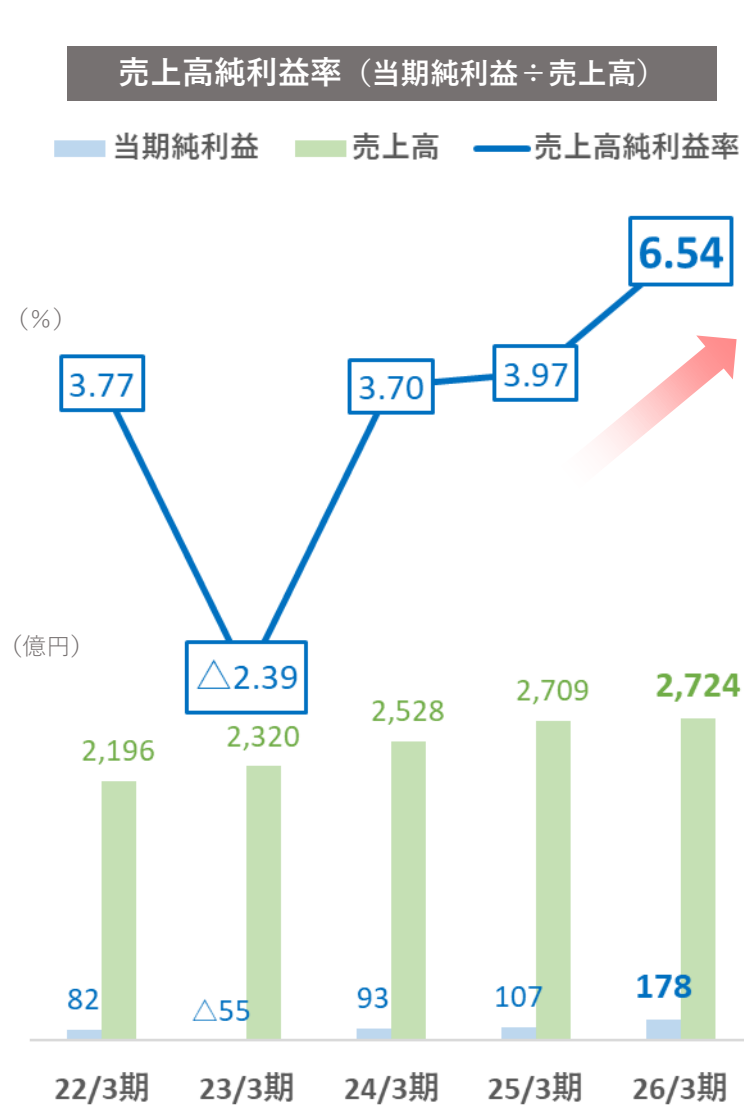
- 収益性の向上により、ROEおよびROICの数値は改善傾向にあり、ROEについては見直し前の中計目標（8.0%）を2年連続で達成。
- 2026年3月末時点の情報に基づき、当社の株主資本コストを5.5%程度、WACCを4.3%程度と認識しており、いずれも上回っている。



現状分析

# 売上高純利益率・総資産回転率・財務レバレッジ ※連結

- 2026年3月期については、良好な事業環境を背景とした工事採算性の改善に加え、政策保有株式の売却益などにより売上高純利益率が改善。
- 財務レバレッジについては、自己資本（利益剰余金）の増加などにより低下傾向。

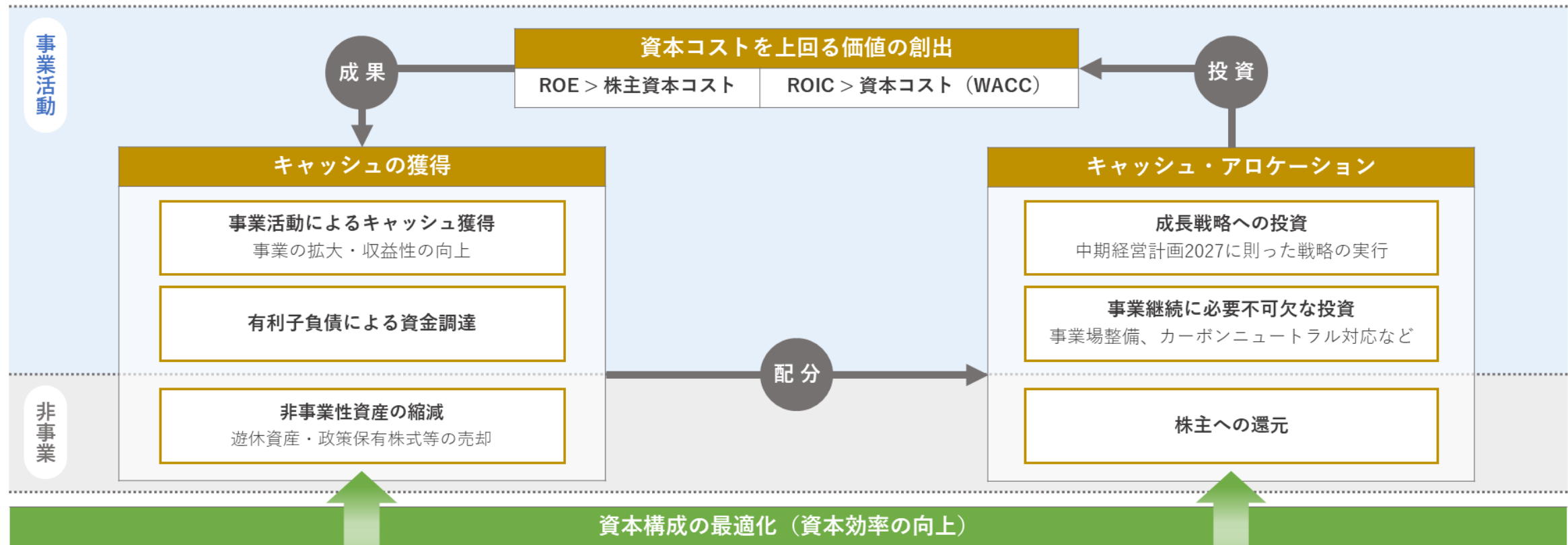


# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針

- 中期経営計画2027に基づき事業活動の強化に取り組む一方、資本政策においては財務の健全性を維持しつつ資本効率の向上を図るため、非事業性資産の縮減や株価を意識した株主還元の強化に取り組んでいく。

## 前提となる考え方

すべてのステークホルダーとの共存共栄を重視し、当社ビジョン（お客さまと、社会と、人と、共に成長し続ける総合設備企業へ。）の実現を目指す。



- 財務健全性確保のため、事業リスクに見合った自己資本の維持を図る。
- 収益性や成長性の観点から事業を評価し、選択と集中を図る。
- 事業への運用率が低い投下資本（非事業性資産）の縮減を進める。
- 必要以上に余剰資金を留保せず、株価を意識した株主還元を実施する。

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた主な取り組み

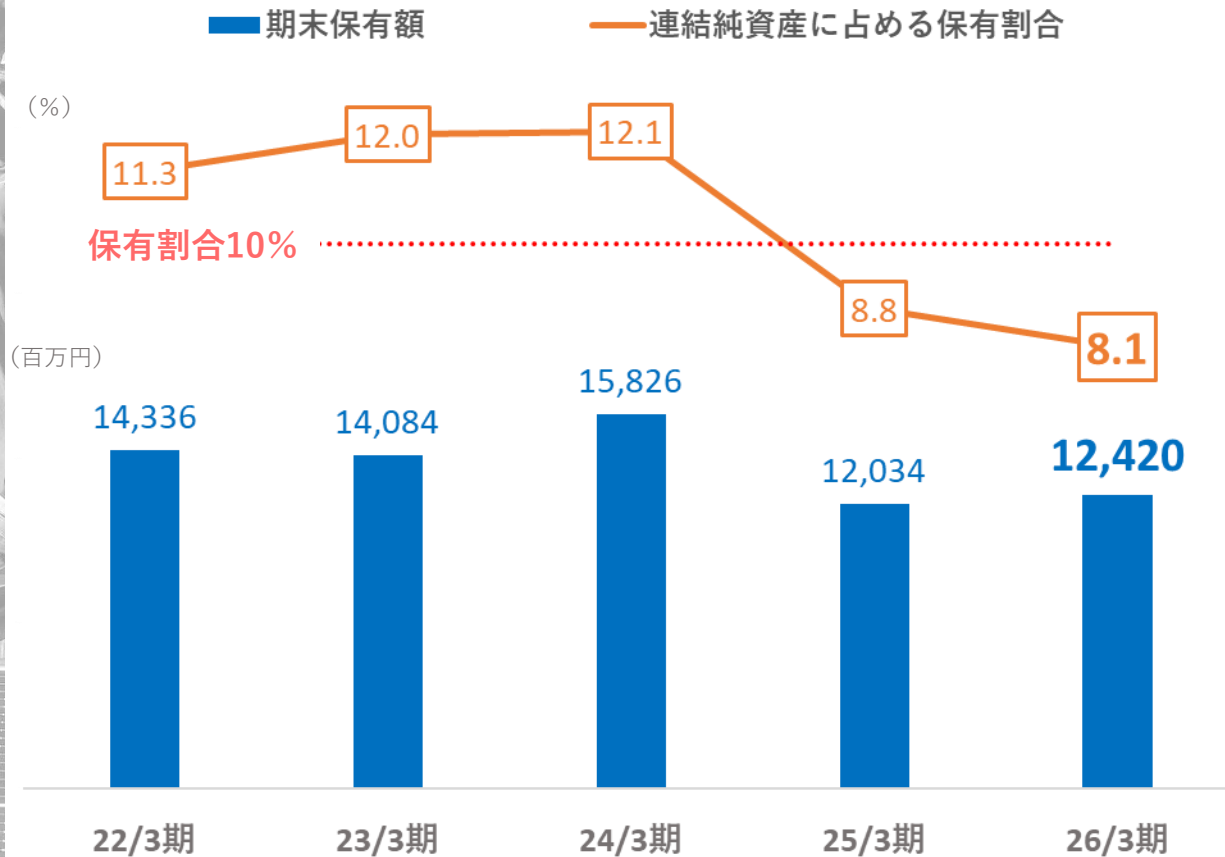
|          | 主な取り組み内容  | 取り組みによる成果  |
|----------|---|--|
| 成長戦略への投資 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中期経営計画2027に則った成長戦略の実行                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 中期経営計画2027（2026年4月28日改訂版）<br/>                                     (<a href="https://www.toenec.co.jp/ir/policy/plan/index.html">https://www.toenec.co.jp/ir/policy/plan/index.html</a>)</li> </ul> </li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生産性向上や人材投資などの成長戦略を推進する中、良好な事業環境も追い風となり、2026年3月期は売上高・利益ともに過去最高を更新。</li> <li>■ 2026年3月期において中期経営計画2027の目標値を前倒しで全て達成。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 更なる成長に向け、2026年4月に数値目標の見直しを実施。</li> </ul> </li> </ul> |
| 資本構成の最適化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 政策保有株式の縮減</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 政策保有株式の縮減方針を定めた上で、着実に縮減を図っており、2026年3月期においては23.7億円売却を実施。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2026年3月期末時点の純資産に対する保有割合は8.1%</li> </ul> </li> </ul>  |
| 株主還元強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 配当方針の見直し</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2025年10月に配当方針の見直しを実施。</li> <li>■ 2024年3月期以降、連結配当性向40%程度の配当を継続中。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2027年3月期配当予想：年間76円 連結配当性向39.5%</li> </ul> </li> </ul>  |
| IR活動の充実  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株主・投資家との建設的な対話の促進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 対話により得た気付きを経営に反映することで、持続的な成長と企業価値の向上を目指す。</li> </ul> </li> <li>■ 適時・適切な情報開示の徹底                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ リスク管理の徹底と適時・適切な情報開示により、投資家に与えるリスク要因（不確実性）を可能な限り低減。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 積極的な対話と開示情報の充実化に注力しており、機関投資家との個別面談も近年増加傾向。</li> <li>■ 2025年12月、個人投資家向け説明会を実施（オンデマンド配信）。</li> </ul>  |

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

# 政策保有株式の縮減

- 当社は「政策保有株式の保有割合を連結純資産の10%未満」とする縮減方針を掲げている。
- 2026年3期においては約23.7億円の売却を実施し、期末時点の保有割合は8.1%。

政策保有株式の保有状況



政策保有株式の売却実績

| 実施年度            | 銘柄数       | 売却金額 (百万円)   |
|-----------------|-----------|--------------|
| 2022年3月期        | 1         | 3            |
| 2023年3月期        | 5         | 154          |
| 2024年3月期        | 10        | 3,029        |
| 2025年3月期        | 22        | 2,618        |
| <b>2026年3月期</b> | <b>15</b> | <b>2,378</b> |

投資家の皆さまからのご意見

- 資本効率向上の観点から、引き続き、政策保有株式の縮減を進めてほしい。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

# 配当方針・1株当たり配当金

## 配当方針

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するため、成長戦略への投資のための内部留保と株主還元をバランスよく実施することを経営の重要課題と位置付け、資本収益性の向上や財務健全性の確保、フリー・キャッシュ・フローの状況などを総合的に勘案し、「**連結配当性向40%を目安として業績に応じた利益還元**」を行うことを基本としている

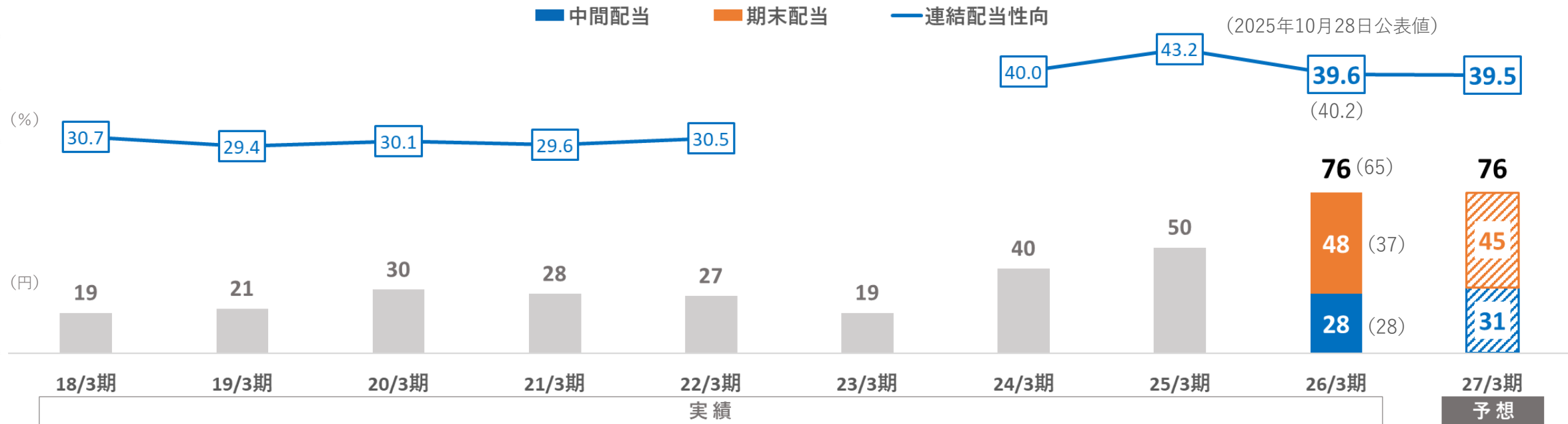
**見直しを実施（2025年10月28日）**

連結配当性向30%以上 → 連結配当性向40%を目安

### 投資家の皆さまからのご意見

- 配当方針では連結配当性向30%以上としながらも、実際には40%程度の配当が続いている。配当に対する御社の考え方をより明確に示してほしい。

### 1株当たり配当金・連結配当性向



※1 当社は2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合をもって株式分割を実施しており、株式分割を遡及適用した数値を表示

※2 2023年3月期の配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益がマイナス（純損失）のため非表示

# IR活動の強化

- IR活動の強化に向け「積極的な対話」と「開示情報の充実化」に取り組んでおり、機関投資家との面談件数は増加傾向。
- 2026年3月期は決算説明会に加え、個人投資家向け説明会（オンデマンド配信）を実施。

## 積極的な対話

| 活動内容          | 23/3期 | 24/3期 | 25/3期       | 26/3期                      |
|---------------|-------|-------|-------------|----------------------------|
| 決算説明資料        | —     | 通期のみ  | 毎四半期        | 毎四半期                       |
| 決算説明会         | —     | —     | 2回<br>半期・通期 | 2回<br>半期・通期                |
| 統合報告書         | —     | ●     | ●           | ●                          |
| 名証IRエキスポ      | ●     | ●     | ●           | ●                          |
| 機関投資家との個別面談件数 | 4件    | 5件    | 44件         | 67件                        |
| 個人投資家向け会社説明会  | —     | —     | —           | 1回<br>2025年12月<br>オンデマンド配信 |

増加傾向 →

### 投資家の皆さまからのご意見

- トーエネックのことをよく知らないため、親近感を持ってない。
- 御社への理解を深めるためにも、説明会の開催を検討してほしい。

## 開示情報の充実化

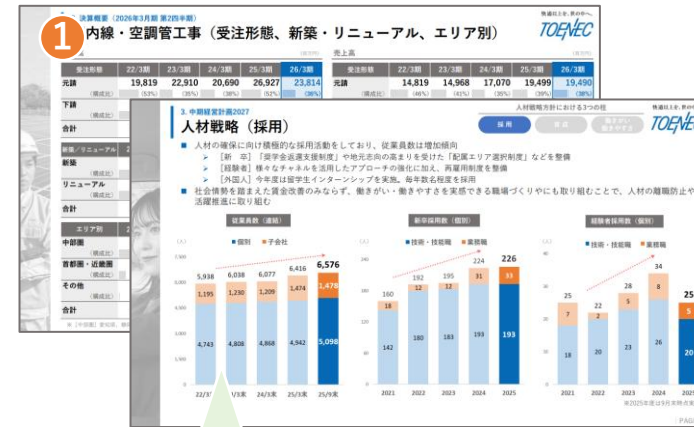
投資家の皆さまからのご意見を受け、以下のとおり開示資料に情報を追加。

### ① 決算説明資料

- 売上高構成（受注形態別、エリア別、施設用途別など）
- 人材戦略に基づく取り組み（採用、育成、働きがい・働きやすさ）

### ② 統合報告書

- 多様な人材活躍推進に向けた社員座談会（女性活躍）



### 投資家の皆さまからのご意見

- 中期経営計画に基づく戦略の進捗状況や将来の成長性を判断するためにも、売上高の構成を開示してほしい。
- 成長に向けては人的資本の充実が不可欠だと思うが、御社の採用、育成、女性活躍に関する主な取り組みを教えてください。

## 将来見通しに関する注意事項

---

本資料に記載されている業績予想などの将来見通しに関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

## 本資料に関するお問い合わせ先

---

株式会社トーエネック 経営企画部 経営企画グループ

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目31番23号

お問い合わせフォーム（当社HP）：<https://www.toenec.co.jp/contact/ir/>





トーエネックの使命(パーパス)

いかなる時も、

人や社会に“活力と豊かさ”を生み出す

快適環境を創り、守る



快適以上を、世の中へ。

TOENEC

